

民間信仰

仏さま系の信仰

本町ではおおむね、曹洞宗派の禅寺（東向寺・迦葉寺）か、浄土真宗お東派（延慶寺）に帰依し、この三ヶ寺に所属している。

家庭での祭祀

仏壇しゆみだんの須弥壇にはご本尊を安置し、下壇には崇拜する仏像や先祖の位牌を祀る。仏壇は、禅宗では黒檀など地味であるのに対し、浄土真宗では金箔の荘厳な厨子を用いる。

五具足（香炉・花立て一対・蝋燭立て一対）とりん・木魚を配置する。拝礼の作法は、お茶とご仏飯（ごつくさま）を供えて、灯明ろうそくと蝋燭を灯し、お香や線香くんじゆずを燻じ、数珠じゆずを手に掛け、りんと木魚を叩き、合掌してお詣りする。

供花は、朔日・15日（夏場は毎週）に季節の生花・黒木柴・キシミなどを飾る。

頂き物や季節の果物・初穂（収穫物）・お菓子や生前の嗜好品などを供える。

※仏間おまえのことを「御前」と呼ぶのは仏さまのおん前おまえのことを指し、上位の部屋で客間として利用する。知己の家を訪問するときは、先ずおまえの仏さまにお詣りした後に家内やうちの方へご挨拶するのが慣わしである。

また、頂き物や季節の果物・初穂（穀類）は先ず仏壇に供えた後、お下げして頂くのが一般的なしきたりで、仏さまや先祖崇拜のうるわしいかたちが現れている。



如来の部

釈迦如来（お釈迦様）

大乘仏教では、釈迦牟尼仏（釈迦如来）は十方（東南西北とその中間である四隅の八方と上下）三世（過去、未来、現在）の無量の諸仏の一仏で、現在の娑婆（サハ一、堪忍世界）の仏である。また、三身説では仏が現世の人々の前に現れた姿であるとされている。

釈迦如来のご真言「のうまくさんまんだ ぼだ なむぼく 曩莫三曼多 菩提 南無漢」と3遍お唱えしてお詣りします。

※ ご真言（真実のことばで仏さまの真理を説き、その徳をたたえる短いお経）

阿弥陀如来

阿弥陀如来とは、大乘仏教の如来の一つである。梵名は「アミターバ」、あるいは「アミターユス」といい、それを「阿弥陀」と音写する。

阿弥陀如来のご真言「おん あみりた ていぜい からうん」と3遍お唱えしてお詣りします。

阿弥陀さま（阿弥陀如来）

念仏を修する衆生は極楽浄土に往生できると説く菩薩の一つで大慈悲で衆生を教度することを本願とし、勢至菩薩と共に阿弥陀如来の脇侍で智慧を表す菩薩。那智山という法華教の普及と共に広く崇拜される。

阿弥陀如来は、本来特定の宗派に限定されるものではないが、日本では浄土宗・真宗の本尊として崇拜されている処が多い。

祭祀地：寺領引地

祭祀地：寺領二又 創建：天保7年（1836）

※阿弥陀三尊 地蔵菩薩・観音菩薩を合祀。

※二又には「寺ノ平」という地名があるが、江戸時代初期の一向宗寺院跡ではないかと言われている。



薬師如来

大乘仏教の仏。東方の浄瑠璃世界の主。除病安楽、息災離苦など12の誓願をおこし、生あるすべてのものをすくうという。ふつう左手に薬壺をもち、右手は施無畏印をむすぶ。脇侍に日光・月光菩薩。十二神将にまもられる。日本では天武天皇9年(680)ごろから薬師信仰がさかんになった。奈良薬師寺、京都神護寺の像などが有名。薬師瑠璃光如来の略。

薬師如来のご真言「おん ころころ せんたり まとうぎ そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

薬師さま（薬師如来）

薬師如来は病氣平癒などを祈願しての造像例が多い。極楽往生を約束する仏である阿弥陀如来とともに、日本においてはもっとも信仰されてきた如来である。典型的な国家護持の祈りを担う密教寺院においては薬師如来を本尊とするところが多い。

祭祀地：東向寺

下掛道 観世音菩薩・弘法大師を合祀

上掛道

大日如来

真言密教の教主。宇宙の実相を仏格化した根本仏であり、一切の現実経験世界の現象はこの如来そのものであるといわれる。さらに三世にわたって常に説法していると説かれる。大日如来のご真言「おん あびらうんけん ばさら だどばん」と3遍お唱えしてお詣りします。

祭祀地：東向寺（本尊物である釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩が祀られている）

下向 普門院 聖観音菩薩他、合祀

新休 花谷庵

寺領 迦葉寺 道元禅師他合祀

鶴 香福庵 地蔵菩薩他、合祀

菩薩の部

文殊菩薩

大乘仏教における菩薩の一つ。釈尊の入滅後に生れた人物と伝えられ、『華嚴経』に

よると南インドで布教活動に従事し、般若波羅蜜を説き、『般若経』を編集したという。

文殊菩薩のご真言「おん あら は しゃ のう」と3遍お唱えしてお詣りします。

普賢菩薩

普賢菩薩は文殊菩薩とともに、釈迦如来の脇侍で白象に乗って仏の右側にいる。（これら三体は合わせて釈迦三尊とも呼ばれます。）文殊菩薩が仏の智慧を司るのに対して、普賢菩薩は慈悲を司ります。

ご真言「おん さんまや さとばん」と3遍お唱えしてお詣りします。

祭祀地：東向寺

地蔵菩薩（地蔵尊・地蔵様）

釈迦の没後、弥勒仏が出現するまでの無 仏の期間、六道で苦しむ衆生（しゅじょう）を教化・救済する菩薩。日本では平安時代 から広く信仰されるようになった。

地蔵菩薩のご真言「おん かかかび さんまえい そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

地蔵菩薩 水子地蔵・四面地蔵・六地蔵

地蔵菩薩は様々なものを生み出す「大地母胎」を意味し、釈迦の入滅後、56億7千万年後に弥勒菩薩が出現するまでの間、現世に仏が不在となってしまったため、その間、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を輪廻する衆生を救ってくださる菩薩さまであるとされ、浄土信仰が普及した平安時代以降信仰が強まったと言われる。

子供や水子の供養でも地蔵信仰を集めた。また、地蔵盆は子供の祭りとして扱われる。お堂や道端に石像として祀られているものもあり、子安地蔵・延命地蔵・いぼ取り地蔵六地蔵など現世利益と結びついたものも多い。



延命地蔵菩薩 無病息災・延命祈願

祭祀地：栢原下

手洗い鉢設置：天明5年乙巳（1785）

3月8日

世話人：弥平他

創建：明治25年（1892）3月・明治39年再建

昭和46年（1971）3月再建

平成6年（1994）3月再建

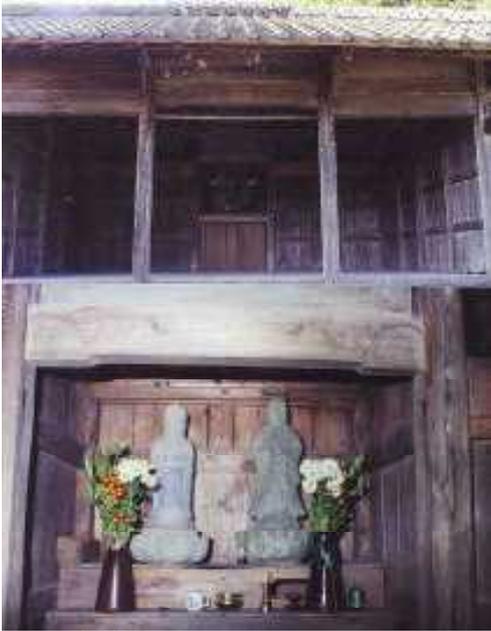
※弘法大師・観世音菩薩を合祀

※延命地蔵菩薩のお祭り

地蔵盆（地蔵会） 祭日：7月24日

彼岸籠り（豆接待）

※子供たちの健やかな成長を願い、参拝者や子供たちには〈豆接待〉をして供養が行なわれる。陸の肉であるタンパク源の供給の意味合いもあった。



栢原上（観音菩薩を合祀）祭礼：7月24日

道面 創建：文政4年（1821）
祭礼：9月24日 彼岸籠り



上掛道
新休 花谷庵（准胝観音と合祀）



新休上

迦葉軒 創建：寶曆12年壬午（1762）

寺領

福岡 聖福庵 創建：元禄16年癸未（1703） 弘法大師を合祀

福岡（観音菩薩を合祀） 祭礼：7月24日

二又 阿弥陀如来・観音菩薩を合祀。

平床 光徳庵

鶴 香福庵 創建：文化2（1805）10月 普賢菩薩と合祀

鶴龍の橋

各地区の私宅でも祭祀している

水子地藏菩薩

性の解放や様々な事情により、多くの亡くなった胎児を供養する。

祭祀地：東向寺

イボ取り地藏

各地に疣いぼとりの神様や仏さまがいらっしゃるが、ヒューマンパピローマウイルス（人

乳頭腫ウイルス) 俗に水イボと呼ばれる伝染性のイボは心意的な暗示療法で治ると言われている。

祭祀地：栞原下

※謂れ：ここに坐すお地蔵さまは「イボ取り」の願を利かれ、子供の手や足に水イボが出来て困った時、子供の年の数だけ大豆を供えてお参りすれば、イボは知らない間に治ると言われ、地元の人より、遠来から祈願やお礼参りに訪れる参拝者も多く、靈驗あらたかな「イボ取り地蔵」として親しまれている。

六地蔵

地蔵菩薩の像を6体並べて祀った六地蔵像が各地で見られる。これは、仏教の六道輪廻の思想(全ての生命は6種の世界に生まれ変わりを繰り返すとする)に基づき、六道のそれぞれを6種の地蔵が救うとする説から生まれたものである。

※六道(地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道)

祭祀地：新休花谷庵

弥勒菩薩

仏教の菩薩の一種。56億7千万年後に、釈迦の再来として下生し、末法世界と化した世の中にもう一度本来の教えを取り戻しに現れるとされ、現在は天上世界でその時を待ちながら修行を続けているという。

弥勒菩薩のご真言「おん まいたれいや そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

弥勒さま(弥勒菩薩)

祭祀地：寺領前原

石灯籠建立：天保7年申(1836)10月

観音菩薩(観世音菩薩・観自在菩薩・観音さま)

観世音菩薩は勢至菩薩と共に阿弥陀如来の脇侍で大乘仏教の中で地蔵菩薩と並んで最も多くの信仰を集めている菩薩である。

救いを求める者に対して数限りない手段を使い、様々な変化相を持って人々を救済する仏教の慈悲の精神を体現した菩薩とされる。

六観音・三十三観音・千手観音・如意輪観音・馬頭観音などがあり、法華教の普及と共に広く崇拜される。禅宗系では千手観音に「大非心陀羅尼經」が読誦される。

石像の観音菩薩と地蔵菩薩のほとんどが道ばたの野仏として祀ってあるが、明治以降は立派なお堂が建立され、弘法大師像など他の仏像と合祀されている。

観音菩薩 聖観音菩薩のご真言「おん ありきや そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

祭祀地：栞原下 創建：天明5年乙巳(1785)弘法大師・地蔵菩薩・観音菩薩を合祀。「南無大師遍照金剛・南無地蔵菩薩・南無観世音菩薩」とお唱えしてお詣りする。

栞原上(地蔵菩薩を合祀)

普問院境内(地蔵菩薩・弘法大師・観音菩薩など5体を合祀)

道面（地蔵菩薩・弘法大師など20体を合祀）

下掛道（弘法大師・薬師如来を合祀）

上掛道（地蔵菩薩・弘法大師を合祀）

横久保（地蔵菩薩を合祀）

祭礼：1月18日・7月18日



新休 花谷庵

寺領鈴木社下 創建：寛政6（1794）・天保10（1839）

福岡 行人岳 創建：享保13（1728）

福岡下 創建：寛政4年甲戌（1754）（地蔵菩薩を合祀）

二叉黒染 天保13（1842）

祭礼：1月18日・6月18日

※阿弥陀如来・地蔵菩薩など6体を合祀。

平床鉾（矢筈岳観音）

創建：寛延2年（1749）

観音堂建立：弘化2（1845） 祭礼：6月18日

鶴田代（墓の下観音）・田代滝の上 創建：天保6（1835）

洗切・宇土前田家 創建：文政8（1825）

梶山 創建：文化8年（1811） 祭礼：3月14日



三十三観音

三十三の姿をとって人々を救済する。

三十三観音の名称

- | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| (1) 楊柳 <small>ようりゅう</small> | (2) 龍頭 <small>りゅうづつ</small> | (3) 持経 <small>じきょう</small> | (4) 円光 <small>えんこう</small> | (5) 遊戯 <small>ゆうぎ</small> | (6) 白衣 <small>びやくえ</small> | (7) 蓮臥 <small>れんが</small> | (8) 滝見 <small>たきみ</small> | (9) 施薬 <small>せやく</small> |
| (10) 魚籃 <small>ぎょらん</small> | (11) 徳王 <small>とくおう</small> | (12) 水月 <small>すいげつ</small> | (13) 一葉 <small>いちよう</small> | (14) 青頸 <small>しょうけい</small> | (15) 威徳 <small>いとく</small> | (16) 延命 <small>えんめい</small> | (17) 衆宝 <small>しゅうぼう</small> | |
| (18) 岩戸 <small>いわと</small> | (19) 能静 <small>のうじょう</small> | (20) 阿耨 <small>あのく</small> | (21) 阿摩提 <small>あまたい</small> | (22) 葉衣 <small>ようえ</small> | (23) 瑠璃 <small>るり</small> | (24) 多羅尊 <small>たらそん</small> | | |
| (25) 蛤蜊 <small>はまぐり</small> | (26) 六時 <small>ろくじ</small> | (27) 普悲 <small>ふひ</small> | (28) 馬郎婦 <small>めろうふ</small> | (29) 合掌 <small>がっしょう</small> | (30) 一如 <small>いちによ</small> | (31) 不二 <small>ふに</small> | | |
| (32) 持蓮 <small>じれん</small> | (33) 灑水 <small>しゃすい</small> | | | | | | | |

観音菩薩のご真言

聖観音ーオン・アロリキヤ・ソワカ

十一面観音ーオン・ロケイ・ジンバ・ラ・キリク・ソワカ / オン・マカ・キャロニキャ
・ソワカ

せんじゆ千手観音ーオン・バザラ・タラマ・キリク・ソワカ

じゆんてい准胝観音ーオン・シャレイ・ソレイ・ソンデイ・ソワカ

「のうまくさつ たなん さんみやくさん ぼだ くちなん たにや おんしゃれい それい そんでい そわか曩莫颯多南 三藐三菩提 俱胝南 旦那 奄者礼 主礼 准胝 薩婆訶」

にょいりん如意輪観音ーオン・ハンドマ・シンダ・マニ・ジンバ・ラ・ソワカ

馬頭観音ーオン・アミリト・ドバンバ・ウン・パツタ・ソワカ

びやくえ白衣観音ーオン・シベイテイ・シベイテイ・ハンダラ・バシニ・ソワカ

ふくうけんじやく不空縑索観音ーオン・アボキヤ・ビジャシャ・ウン・ハッタ / オン・ハンドマダラ・ア

ボキヤジャヤニ・ソロソロ・ソワカ

ようりゆう揚柳観音ーオン・バザラダラマ・ベイサジャ・ラジャヤ・ソワカ

祭祀地：東向寺

※肥後33観音霊場第11番札所に指定 安政6年（1859）

普門院境内（同業衆）

子安弘法大師・不動明王を合祀

その他の菩薩

だいげんしゆり大権修利菩薩（大権菩薩）

曹洞宗寺院で尊重され祀られる尊格である。もとは中国の船を守る神さまで、右手をかざしているのは海に行く船が安全に航海できるようにみまもるため。

日本に入って、お釈迦さまから続く教えが途切れないでずっと続いていくように見守る神さまとなったとされる。

祭祀地：東向寺

勢至菩薩

勢至菩薩は、六世紀前半、達磨が中国に伝え始祖である。観音菩薩と並んで阿弥陀三尊の脇士として有名、蓮華台を持った観音に対し、合掌した姿で表されることが多く、今まさに往生しようとする衆生を極楽浄土に迎えてくれるといわれ、観音の慈悲に対し、勢至菩薩は仏の智慧の光を象徴しており、あまねく一切を照らし出す。

ご真言「おん さん ざん ざん さく そわ か」と3遍お唱えしてお詣りします。

祭祀地：東向寺

二十三夜待ち（二十三夜さま・二十三夜講） 勢至菩薩

毎月23日夜（勢至菩薩の縁日にあたる23日）月の出を待ちながら勢至菩薩をお祈りする「待ち籠もり」で、二十三夜さまとも呼ばれた。

また、生活救済のための地縁による無尽講（むじんこう頼もし講）を開くことから「二十三夜講」とも言われた。（伊勢講と同様）

講金はクジ引きで落としたが、どうしても入り用の人には合議の上用立てた。崇拜者

が集まって深夜までお籠もりをする祭事。昭和中期頃途絶えた。

勢至菩薩のご真言「おん さんざん ざんさく そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

月まち

勢至菩薩を祀る「お待ち籠り」で、十五夜の月から夜ごとに遅くなる月の出を待ってお祈りを捧げた。二十三夜待ちと同じく昭和中期頃途絶えた。

※十六夜（いざ宵）・十七夜（居待ち）・十八夜（立ち待ち）・十九夜（寝待・ち）二十夜（臥せ待ち）といって十五夜の月は日没後50分に現れるが、夜毎に50分遅れになり、月の出を寝たり臥せたりして眺めたのは、日本ならではの風情である。

虚空蔵菩薩

ぎょうにん

行人さま（観世音菩薩）を祀る

祭祀地：福岡行人岳

創建：天保13（1842）

祭礼：旧の2月18日

※雪州山肌の東端にある行人岳には行人さまが祀ってある。言い伝えによるとその昔、役の行者が行人岳に棲み着き、一本歯の下駄を履いて、雲仙岳や阿蘇山、霧島連山などを跳び渡って修業を重ね、天草郡中を守護していた。これを見ていた上鶴に住む金兵衛と喜右衛門なる浪人が「空を跳ぶのは人間にあらず、きっと悪い事が起きる前触れだ」と云い、皆が止めるのも聞き入れず、火前を放ち帰らぬ人となった。



福岡では行者が生前「観音さまを信仰すればあらゆる難病も平癒する」との教えに従い、この崇高な行者さまを「行人さま」として奉り、御堂を建立して、観世音の石像を安置し、無病息災を祈願している。

ある時、時化で方向が分からなくなり困っていた漁師の舟に行人岳の観音さまが灯りを示して助けてくれたという伝説からか鬼池などからも多くの参拝者が訪れ、一本歯の下駄が数多く奉納してある。参拝者には酒や料理が振る舞われる。

真言宗系では六観音（聖観音・十一面観音・千手観音・馬頭観音・准胝観音・如意輪観音）と称している。

しょう

聖観音（正観音）

六観音の一つで、像には、さまざまな形態のものがあるが、このうち、多面多臂などの超人間的な姿ではない、1面2臂の像を指して聖観音と称している。

大慈の観音として、六観音の役割では地獄道を化益するという。

祭祀地：下河内 普門院 釈迦如来他、合祀

鶴 香福庵 釈迦如来・地藏菩薩を合祀



十一面観音

十一面観音はその深い慈悲により衆生から一切の苦しみを抜き去る功德を施す菩薩であるとされ、女神のような容姿に造られたものが多い。

祭祀地：鉾（矢筈岳） 創建：文政10年（1827）

千手観音（千手千眼観音）

それぞれの手に目が有ります。多くの人々の救済を求める声（音）を観て（観音）、救済するという。

祭祀地：東向寺

馬頭観音（家畜安全祈願・交通安全祈願）

頭上に馬頭を頂いて忿怒の相をなした観世音菩薩で三面 二臂、八臂などがあり馬頭明王とも云う八大明王の一つ、馬の保護神として信仰された。

祭祀地：栢原上・栢原下 創建：昭和14年 畜産農家で祀る

道面 創建：文化2（1805）（地藏菩薩を合祀）

上掛道 祭礼：旧3月18日

新休野田 祭礼：4月18日 畜産農家

寺領垣内 創建：昭和初年 祭礼：3月18日

下鶴・洗切・永野・梶山 祭礼：2月1日



※ 栢ノ原には、伯父の迫・前ン迫・中ン迫・後ン迫・木場ン迫と言う字名が示す通り、迫々に集落がある。昔から、段状の狭い田畑で農業が営まれ、各戸に牛馬が飼育されていた。牛馬は農家の大切な財産であると同時に、農耕や荷物の運搬、荷馬車・客馬車の牽引など労力としても使役され、当然牛馬も家族の一員として大事に飼育された。

毛首井手と呼ばれる井堰には、牛馬の水浴び場があり、馬ン運動場（牧場）には、家畜の病気や事故がないようにと馬頭観音さまが祀られていた。

富岡往還（現在の県道富岡線）が開通してからは交通量の増加により交通安全祈願を兼ねて昭和14年（1939）栢の原下住民によって新しい馬頭観音さまが建立された。

現在は地藏堂の脇に祀られている。



准胝観音（准胝尊） ※「準提尊」と刻字

六観音の一つで、密教の女性尊で准胝仏母ともいう。

東向寺14世 漢山道一禅師・15世上監天中和尚は熱心な准胝観音の崇拝者であったといわれ、その影響からか本町には10カ所に建立されている。

ご真言は「南無^{のうまくさつたなん}颯多南^{さんみやくさんぼた} 三藐三没駄^{たくちなん} 俱胝南^{たにや} 旦姪^{おんしゃれい} 奄者礼^{それい} 主礼^{そんてい} 準提^{そわか} 莎婆訶」

- 祭祀地：東向寺 山門前 創建：寛政 9年（1797）7月
地蔵菩薩・観音菩薩など5体を合祀
- 普門院入口 創建：享和 2年（1802）7月
- 寺領 迦葉軒入口 創建：文化12年（1815）1月
- 新休 花谷庵境内 創建：文化12年（1815）3月
地蔵菩薩・観世音菩薩と合祀
- 福岡 聖福庵・平床 光徳庵・鶴 香福庵
- 二又阿弥陀堂境内 創建：文化13年（1816）2月
- 洗切 創建：文化15年（1818）1月
- 下鶴久保利 創建：文政 2年（1819）4月



お日待ち（日輪観音）

「お待ち籠もり」の一種で、日輪観音を祀る宗教行事の一つ。

地縁の信者が輪番の座元に料理を持ち寄り、日の出まで一晩中、世間話や飲食が続く。昭和中期頃、途絶えた。

子安観音

祭祀地：東向寺：下平床 祭礼：4月8日 安産祈願

身代わり観世音菩薩

祭祀地：東向寺

罹漢・高僧等の部

十六罹漢・道元禅師・^{だるま}達磨大和尚・^{ちゅうかけいほう}中華珪法禅師

祭祀地：東向寺

迦葉寺（釈迦如来・道元禅師）

弘法大師（お大師っ様）

弘法大師は、真言密教の開祖・空海である。春分の日（3月21日）は「彼岸の中日」に当り、弘法大師をお祭りし、先祖の供養と豊作祈願が行われます。参拝者には餅やお握り・お煮染めなどを接待する。

大師宝号「南無大師遍照金剛」とお唱えしてお詣りする。



※地蔵様（地蔵菩薩）



薩）とお大師様（弘法大師）を合祀しているのが、混同してあるが、地蔵堂で3

いる向きも
月21日の「おにぎり接待」

は、お大師っさまの祀りである。

祭祀地：[栢原下](#) 創建：天明5年（1785） 地蔵菩薩・観音菩薩を合祀

祭礼：3月21日（春分の日）

[栢原上](#)（地蔵菩薩・観音菩薩を合祀）

[下向普門院境内](#)（弘法大師・観音菩薩を合祀）祭礼：3月21日（春分の日）

[道面](#)（地蔵菩薩・観音菩薩を合祀）祭礼：3月21日（春分の日）

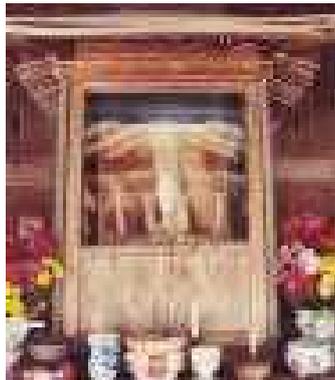
[下掛道](#)（薬師如来・地蔵菩薩・観音菩薩を合祀）

[上掛道](#)・[横久保](#)・[新休](#)・[寺領](#)・

[二又](#)・[福岡](#)・[下平床](#)

[下鶴](#)・[鶴](#) [香福庵](#)・[龍の橋](#)・[永野](#)

各地区の私宅でも祭祀している



新四国八十八ヶ所天草霊場

四国88ヶ所霊場を模したミニ霊場が寺院境内や天草各地に設置されている。

慶安2年（1649）国照寺（志岐）境内裏山

安政5年（1858）金性寺（教良木）境内裏山

明治22年(1889)天真寺(坂瀬川)境内裏山

その他、建立時期は不明だが、観音院(染岳)・東明寺(手野)・寿覚院(富岡)・江月院(大江)・宗心寺(楠浦)・量性寺(宮地岳)・九品寺(大浦)・西光庵(河浦)・功德庵(小島子)の境内や今富大師堂(崎津)・小ヶ倉観音堂(栖本河内)・城山大師堂(棚底)・樋合大師堂(合津)・本郷大師堂(宮野河内)・一ノ瀬大師堂(新合)・茂串大師堂(牛深)・須子(有明)地蔵院(阿村)など大師堂と併祀されている。

四国88カ所天草霊場 昭和34年(1959)指定

- ※東向寺 四国88カ所天草霊場 別格所
- ※普門院 四国88カ所天草霊場第84番札所
- ※迦葉寺 四国88カ所天草霊場第85番札所
- ※香福庵 四国88カ所天草霊場第86番札所

	名称	本尊	所在地	
別格	東向寺	釈迦無尼仏	本町新休	
第一番	明德寺	釈迦無尼仏	本戸馬場	
第二番	延命寺	釈迦無尼仏	本渡山口	
第三番	無畏庵	千手観世音	町山口	
第四番	観音院	聖観音大士	山口染岳	境内88ヶ所
第五番	溪月庵	観世音菩薩	栢宇土	
第六番	知足庵	薬師如来・観世音菩薩	食場	
第七番	松林庵(廃庵)	薬師如来	亀川	
第八番	海潮庵(廃庵)	観世音菩薩	志柿瀬戸	
第九番	高雲寺	釈迦無尼仏	志柿	
第十番	大光寺	釈迦無尼仏	島子	
第十一番	功德庵	観世音菩薩	小島子	境内88ヶ所
第十二番	観音堂	多羅尊観世音菩薩	上津浦山川	
第十三番	正覚寺	釈迦無尼仏	上津浦	
第十四番	大師堂	弥勒菩薩	赤崎	
第十五番	観音堂	薬師仏	須子	
第十六番	地蔵堂	千手観音大師	須子	
第十七番	九品寺	阿弥陀仏	大浦	境内88ヶ所
第十八番	永寿軒(廃庵)	釈迦無尼仏	楠浦	
第十九番	向陽寺	釈迦無尼仏	合津	
第二十番	遍照院	釈迦無尼仏	大矢野上	
第二一番	円福寺	単立	登立	
第二二番	地蔵院	地蔵菩薩	阿村	
第二三番	意水寺	地蔵菩薩	姫戸	
第二四番	地蔵堂	地蔵菩薩	姫戸牟田	
第二五番	含光庵	釈迦無尼仏	今泉	
第二六番	枕流軒(無住)	釈迦無尼仏	内野河内	

第二七番	管松軒	弘法大師	栖本大河内	
第二八番	光蓮寺	阿弥陀如来	浦	
第二九番	紫光庵	観音大士	棚底	
第三十番	江岸寺	阿弥陀如来	棚底	
第三一番	大師教会（無住）	弘法大師	宮田	
第三二番	大師堂	十一面観音大士	宮田	
第三三番	遺迎庵	薬師如来	宮田	
第三四番	円性寺	阿弥陀如来	栖本	
第三五番	利明寺	南無阿弥陀仏	栖本	
第三六番	實行庵	南無阿弥陀仏 不動明王	栖本河内	
第三六番奥の院	観音堂	十一面観世音菩薩	栖本小ヶ倉	
第三七番	薬師庵（無住）	薬師如来	栖本打田	
第三八番	愍性軒	阿弥陀如来	下浦	
第三九番	薬師庵（廃庵）	薬師如来	下浦船場	
第四十番	宗心寺	薬師如来	楠浦	境内 88ヶ所
第四一番	壺岑庵（廃庵）	釈迦無尼仏	大宮地	
第四二番	海潮寺	釈迦如来	大多尾	
第四三番	明榮寺	釈迦如来	小宮地	
第四四番	西光寺（無住）	阿弥陀如来	中田	
第四五番	大師堂	弘法大師	中田	
第四六番	大蓮寺	阿弥陀如来	宮野河内	
第四七番	観音堂	観世音菩薩	深海	
第四八番	西光庵（無住）	阿弥陀如来	河浦主留	境内 88ヶ所
第四九番	十善寺（無住）	阿弥陀如来	久留	
第五十番	法香寺（無住）	弘法大師	新合	
第五一番	洗心寺（無住）	弘法大師	立原	
第五二番	量性寺	阿弥陀如来	宮地岳	境内 88ヶ所
第五三番	薬師寺（無住）	薬師如来	河浦今村	
第五四番	観音寺	観世音菩薩	益田	
第五五番	信福寺	阿弥陀如来	一町田	
第五六番	崇円寺	阿弥陀如来	一町田	
第五七番	福聚庵（無住）	弘法大師	河浦今富	
第五八番	普濟庵（廃庵）	弘法大師	今留	
第五九番	晋応軒	釈迦如来	崎津	
第六十番	海蔵庵（廃庵）	釈迦如来	軍ヶ浦	
第六一番	江月院	釈迦無尼仏	大江	境内 88ヶ所
第六二番	隣峰寺	釈迦無尼仏	高浜	
第六三番	大師堂	弘法大師	高浜	
第六四番	慈泉庵（無住）	釈迦如来	小田床	
第六五番	隣陽寺（無住）	釈迦如来	下田	

第六六番	大慈庵（無住）	釈迦如来	都呂々	
第六七番	国照寺	釈迦如来	志岐	境内 88 ヶ所
第六八番	円通寺（廃寺）	釈迦如来	白木尾	
第六九番	寿覚院	阿弥陀如来	富岡	境内 88 ヶ所
第七十番	観音院	観世音菩薩	志岐	
第七一番	養老庵（無住）	阿弥陀如来	上津深江	
第七二番	天真寺	釈迦如来	坂瀬川	境内 88 ヶ所
第七三番	東雲寺	釈迦如来	二江	
第七四番	大師堂（無住）	弘法大師	二江	
第七五番	東明寺	釈迦如来	井手	境内 88 ヶ所
第七六番	文殊庵（無住）		城河原	
第七七番	観音寺	観世音菩薩	城河原	
第七八番	鬼之城大師堂	弘法大師	御領	
第七九番	専福庵（廃庵）	十一面観世音菩薩	御領	
第八十番	芳證寺	釈迦無尼佛	御領	
第八一番	林松庵（無住）	観世音菩薩	御領小串	
第八二番	阿弥陀寺（無住）	阿弥陀如来	佐伊津	
第八三番	溪林庵（廃庵）	釈迦如来	茂木根	
第八四番	普門院（廃寺）	釈迦無尼仏	下河内	
第八五番	迦葉寺	釈迦無尼仏	寺領	
第八六番	香福庵（廃寺）	釈迦無尼仏	鶴	
第八七番	高德庵		広瀬	
第八八番	金慶寺	釈迦無尼仏	諏訪	
番外	大師堂	弘法大師 不動明王	本渡城山	
	金性寺	釈迦無尼仏	教良木河内	境内 88 ヶ所
	大師堂	遍照金剛	亀川古寺	

新天草八八ヶ所霊場

弘法大師・空海は、真言宗の開祖である。天草で最も古いお寺、染岳観音院（本渡町山口）は、弘法大師の法孫 妙覚法印により天慶4年（941）に真言宗の寺院として創建されていることが記録されています。

永禄9年（1566）キリスト教が伝来し、仏教や神道を否定して対立するようになりキリシタンによる破壊行為が天草各地で起っています。

染岳観音院も天正17年（1589）天正合戦の折、キリシタン大名小西行長の兵火を浴び全焼しています。

キリスト教が伝来するまでの625年間は、天草全島に真言宗・天台宗の寺院や弘法大師が信仰されていたことが推測されます。

天草島原の乱後、天草は天領となり、鈴木重成が初代代官として着任しました。鈴木

重成は荒廃した民心の安定を図るため、天草を88ヶ町村に区分けして統治しました。

幕府はキリシタンを鎮圧し、教会の跡には曹洞宗（13ヶ寺）・浄土宗（8ヶ寺）・真言宗（1ヶ寺）の寺院や神社（2社）を建立し、総計300石の寺社領を付与しました。

東向寺・国照寺・円性寺・崇円寺は、天草四ヶ本寺として上位に置き、行政面でも各村の庄屋、村役人の目付役等重要な役割を持っていました。

天草に現存する真言宗寺院は、鈴木重成開基の阿弥陀寺（佐伊津）がありますが、天草では古くから真言宗だけでなく曹洞宗・浄土宗・浄土真宗のお寺にも弘法大師が併祀されています。また、弘法大師信仰は普く天草全島に及び、大師堂やミニ88ヶ所には石仏が祀られ、宗派を問わないいわゆる「皆の宗」で篤く信仰されてきました。

昭和中期までは盛んであった「天草八十八ヶ所霊場巡り」は時の流れと共に廃れた施設もあり、長い間途絶えていましたが、このたび新たな霊場が加えられ、巡礼ルートも立派に整備され真言宗総本山東寺（京都）の公認を受けて、「天草八十八ヶ所霊場巡り」が復興し、平成26年5月10日、松崎僧正を招聘して復興記念巡礼には約100名が参加しました。

四国八十八ヶ所のお遍路は、病気や悩み・苦しみから逃れるために仏様に救いを求めるための祈願の遍路です。

一方、「天草遍路」は、願い事だけでなく、私どもが日々つつがなく生かされていることを感謝して、仏様にお礼を申し上げる巡礼なのです。

新天草八十八ヶ所霊場

札所	山号	寺号	宗派	本尊	所在地
1-1	向陽山	明德寺	曹洞	釈迦如来	本渡町本戸馬場1148
1-2		普門院	曹洞	釈迦如来	本町下河内
1-3	雲臺山	迦葉寺	曹洞	釈迦如来	本町本174
1-4	洞照山	観音寺	曹洞	釈迦如来	五和町城河原2-1383
1-5	石水山	東明寺	曹洞	薬師如来	五和町手野1-591
1-6		大師堂		大日如来	五和町御領鬼之城3396
1-7	月圭山	芳證寺	曹洞	長岡興就	五和町御領6610
1-8		大師堂		大日如来	中央新町3-20
1-9		溪月庵	曹洞	釈迦如来	栞宇土町1169
1-10		無畏庵	曹洞	千手観音	本渡町本渡3727
1-11	染岳山	観音院	曹洞	釈迦如来八十八ヶ所	本渡町本渡4615
2-1	円通山	高雲寺	曹洞	釈迦如来	志柿町3572
2-2	醫王山	大光寺	曹洞	釈迦如来	有明町大島子2059
2-3		功德庵	曹洞	釈迦如来	有明町小島子673
2-4	円明山	正覚寺	曹洞	釈迦如来	有明町上津浦3550
2-5		大師堂		大日如来	有明町上津浦横峰5314老岳
2-6		大師堂		弥勒菩薩	有明町赤崎
2-7		地藏堂		地藏菩薩	有明町須子
2-8		観音堂		観世音	有明町楠甫下村 藤野観音

2-9	平田山	九品寺	浄土	流人墓	有明町大浦1490
2-10	登龍山	愍性寺	浄土	阿弥陀	下浦町1439
2-11	天勝山	龍雲寺	真言律宗	不動明王	下浦町金焼9792-1-1
3-1	医王山	利明寺	浄土	阿弥陀	栖本町湯船原1099
3-2		大師堂		大日如来	栖本町馬場
3-3	松栄山	実行寺	浄土	阿弥陀	栖本町河内5204
3-4	小ヶ倉山	観音院		観世音	栖本町河内小ヶ倉
3-5		大師堂		大日如来	栖本町古江
3-6	紫雲山	遣迎寺	浄土	大師併祀	倉岳町宮田1095
3-7	海雲山	江岸寺	浄土	阿弥陀	倉岳町棚底2680
3-8		大師堂		大日如来	倉岳町棚底1025 城山
3-9	観音山	光蓮寺	浄土	阿弥陀	倉岳町浦1542
3-10	鶴眠山	東岸寺	浄土	阿弥陀	御所浦町3570 本郷
3-11		称念寺	浄土	阿弥陀	御所浦町唐木崎4669
4-1		大師堂		不動明王	竜ヶ岳町樋島
4-2		竜岸寺	浄土	阿弥陀	竜ヶ岳町大道2831
4-3		大師堂		大日如来	姫戸町二間戸 山田大師堂
4-4	紫雲山	意水寺	浄土	阿弥陀	姫戸町姫浦4927 牟田
4-5	慈船山	地藏院	曹洞	釈迦如来	松島町阿村1063
4-6	淘汰山	金性寺	曹洞	釈迦如来 88ヶ所	松島町教良木2365
4-7		大師堂		大日如来八十八仏	松島町合津樋合
4-8		大師堂		大日如来	大矢野町維和
4-9		成就院	真言律宗	中国弘法大師	大矢野町登立大湯11701
4-10	古城山	遍照院	曹洞	教会跡	大矢野町上983
4-11		説教所	浄土真宗	阿弥陀	大矢野町湯島
5-1		潮音寺	曹洞	釈迦如来	五和町鬼池1844
5-2		高野山教会		大日如来	五和町二江
5-3		海潮庵	曹洞	釈迦如来	五和町二江通詞
5-4	光明山	天真寺	曹洞	釈迦如来	苓北町坂瀬川142
5-5		養老庵	曹洞	大日如来	苓北町上津深江683
5-6	浦陀山	観音院	曹洞	釈迦如来	苓北町志岐163 中通
5-7		切支丹供養碑		大日如来	苓北町富岡
5-8		観音堂		観世音	苓北町志岐山 水の元
5-9	帰命山	寿覚院	浄土	阿弥陀	苓北町富岡2450
5-10	白華山	円通寺	曹洞	釈迦如来	苓北町志岐6
5-11		大慈庵	曹洞	釈迦如来	苓北町都呂々1172
6-1		大師堂		大日如来	栢宇土町寺ノ尾
6-2		大師堂		大日如来	天草町福連木
6-3	薬王山	隣湯寺	曹洞	釈迦如来薬師如来	天草町下田北1175
6-4		慈泉庵	曹洞	釈迦如来	天草町下田南2479

6-5		大師堂		大日如来	天草町高浜南 十三仏
6-6	高德山	隣峰寺	曹洞	釈迦如来	天草町高浜南771
6-7	徳照山	江月院	曹洞	釈迦如来	天草町大江386
6-8		海蔵庵	曹洞	釈迦如来弘法大師	天草町大江軍ヶ浦575
6-9	鶴林山	普心軒	曹洞	釈迦如来	河浦町崎津342
6-10		大師堂		大日如来 88ヶ所	河浦町今富
6-11	清瀧山	信福寺	浄土	阿弥陀	河浦町河浦226
7-1	以鏡山	宗心寺	曹洞	釈迦如来	楠浦町169
7-2		大師堂		大日如来	新和町大宮地
7-3	永江山	海潮寺	曹洞	釈迦如来	新和町大多尾2801
7-4	金剛山	明栄寺	曹洞	釈迦如来	新和町小宮地1300
7-5		大師堂		大日如来	新和町中田
7-6		大師堂		大日如来	新和町碓石
7-7	紅葉山	量性寺	浄土	阿弥陀	宮地岳町5468
7-8	紫雲山	大蓮寺	浄土	阿弥陀	河浦町宮野河内427 本郷北
7-9		大師堂		大日如来	河浦町宮野河内本郷
7-10		観音堂		観世音	深海町
7-11	天中山	法香寺	浄土	阿弥陀	河浦町新合2023
8-1		大師堂		大日如来88ヶ所	河浦町新合
8-2	岩戸山	観音堂		観世音	河浦町今田252 益田
8-3	医王山	薬師寺	浄土	薬師如来	河浦町今田2816
8-4		十善庵	浄土	阿弥陀 弘法大師	河浦町久留
8-5		西光庵	浄土	阿弥陀 88ヶ所	河浦町主留
8-6		梅香庵	浄土	阿弥陀	二浦町早浦1308
8-7		慈眼庵	浄土	阿弥陀	魚貴町1582-1
8-8		大師堂		大日如来 88ヶ所	牛深町茂串
8-9		烏帽子		大日如来	牛深町天附
8-10		潮深寺	曹洞	釈迦如来	牛深町大池田
8-11	久玉山	無量寺	浄土	阿弥陀	久玉町1891

子安弘法大師 安産祈願

祭祀地：下向 普門院境内（同業衆）

観音菩薩・不動明王を合祀

※普門院は昭和49年2月廃庵となった。

大師宝号は「南無大師遍照金剛」とお唱えしてお詣りする。

不動明王のご真言は「^{のうまくさんまんだ} 曩莫三曼多 ^{ばーざらだ} 縛日羅多
^{せんだーま} 仙多 ^{かるしゃたーそ} 摩訶盧舍多 ^{わたやうんたらたーかんまん} 蘇婆多耶 吽多羅多 含満」と3遍お唱えしてお詣りします。



聖観世音菩薩のご真言は「おん あろりきゃ そわか」と3遍お唱えしてお詣りします。

子安弘法大師

祭祀地：宇土永野

創建：昭和34年（1959）

三界万霊塔 無病息災 疾病平癒祈願

三界とは仏教語で、欲界（食欲、性欲、睡眠欲）、色界（性欲の強いこと）、無色界（性欲のない心の世界）のことである。

万霊とは欲、色、無色界の有情無情の精霊などのあらゆる世界をさしている。それらを供養するために建てられたのが三界萬霊塔である。

祭祀地：東向寺・普門院・迦葉軒・聖福庵・光徳庵・香福庵

鶴田代 創建：天保6（1835）

梶山 創建：明和8年（1771） 祭礼：4月第一日曜

地区の各墓所



びんするそん

賓頭盧尊さま お釈迦様の弟子

十六羅漢のお一人。不死身の生命を得て一切の衆生を救済される除病の仏様。「撫で仏」「おさすり様」と呼ばれ、患者の悪い箇所と仏様の同じ部分を交互に撫でてお願いすれば、願いを聞き届けられ、たちまち平癒する。また、ボケ封じにも霊験ありと言う。

祭祀地：寺領迦葉軒 創建：明治10年（1877）3月21日

柏苗道林和尚

鶴 香福庵境内



明王の部

不動明王（不動・不動尊・不動様）防火の神様

大日如来に仕える厄除け災難除去・開運吉祥の明王である。

不動明王のご真言は「^{のうまくさんまんだ} 曩莫三曼多 ^{ばーざら} 縛日羅多 ^だ 仙多 ^{せんだー} 摩訶盧舍多 ^{まかろしゃだー} 蘇婆多耶 ^{そわたや} 吽多羅多 ^{うんたらたー} 含満 ^{かんまん}」と3遍お唱えしてお詣りします。



祭祀地：下向 普門院境内（同業衆）

子安弘法大師・観世音菩薩と合祀

平床不動の滝（弘法大師と合祀）

※不動の滝は、うっそうと茂る竹林の中に、切り立った断崖を流れ落ちる滝の高さは約25メートル、水量は少ないが水が絶えたことはないと言う。

祭祀地：栞原 鶴田功家



天部・星宿の部

毘沙門天・妙見菩薩・仁王・十二神授

妙見さま（妙見菩薩）

妙見は、一般に北極星を神格化したもの、あるいは菩薩とされている。辺地や難所にその名が残り水難、除災の神であり菩薩でもあると言う。九州では切支丹禁止令後、マリア観音などと共に崇拝の対象と成っているといわれる。

祭祀地：梶山（杉本・窪地） 祭礼：春祈禱の日

※ご神体は自然石で祭日の前日しめ縄を飾り新しい藁でこくら（社）^{やしろ}を作る。このような祠は移動自由で一時的な神の在所として、珍しい古い神の祀り方である。

大師講（聖徳太子）

祭祀地：東向寺境内 祭礼：1月11日

※室町時代から始まったと言われ、大工・左官・竹細工・屋根葺きの職人で祀られる。

こうしん

庚申待ち（庚申さま）

庚申待ちは陰陽道から来ているといわれ、干支の^{かのえさる}庚申の日の夜に祭事を行った後、世間話や飲食しながら一晩過ごす習俗である。

彼岸籠もり

「彼岸」とは仏教用語で極楽浄土のことを意味している。昭和中期までは、3月21日（春分の日）と9月23日（秋分の日）は「彼岸籠り」といってご婦人方が地蔵堂に籠もって祭事を行った。

後に7月24日「地蔵盆」の行事に変わった。また、豆料理を接待することから「豆ぜっちゃ」と呼ばれ、参拝者や子どもたちに豆料理が振る舞われた。

子どもたち数人で「みゃーってくなー」（お参り下さい）と叫びながら、鉦を叩いて触れて廻った。

炒った硬いとん豆（ソラマメ）をよく食べたものだ。

※「お待ち籠もり」は、昭和中期まで栞原では祀られていて、崇敬者の自宅を輪番で座をつとめた。

妙法蓮華經一石一字塔

法華經^{ほっけきょう}は大乗仏教の経典である。なお「妙法蓮華經」は観音經（観世音菩薩普門品第25）として普及している。この一石一字塔には経典の字句を一つの石に一字ずつ書いて埋めたもので、疫病の治癒や健康を祈願して建立されたものである。

このような祀り方は古くから全国各地で見られる。

創建：天保4年（1833）

祭祀地：平床矢筈岳観音堂境内

祭祀地：福岡行人岳観音堂境内

創建：天保4年（1833）癸巳7月28日 祭礼：旧2月18日

世話人：鶴田兼造



※福岡の一石一字塔の祭祀は、役回りの当任が参道の草刈りや供物をする。地元の人たちや遠来からの参拝者には、御神酒や料理をご馳走（接待）する。